

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201600		
法人名	合同会社総合介護サービス		
事業所名	さくらそう玉島		
所在地	倉敷市玉島勇崎6-8		
自己評価作成日	令和5年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス制限緩和にて、面会制限も緩和され、家族と会える機会が増えたことで笑顔も増えていきます。また、ADL低下を軽減できるよう、1日1回はラジオ体操を一緒に行い、昼食前には三百六十五歩のマーチを聞きながら全員で施設内を歩き歩行訓練を行っています。日中のレクリエーションでも、利用者様の出来ることを個別に提供することで、脳を活性化出来るよう支援しています。また、家族の方にも安心していただけるよう、毎月写真入りの通信を送らせて頂いています。週に2回昼食には、利用者様のリクエストを聞き、食事作りのおもてなしを行い、出来る作業は一緒に行っています。季節に合わせた飾り付けを利用者様と一緒に製作し飾ることで、施設内でも季節感を感じていただき、過ごしやすい雰囲気づくりに努めています。

最期まで穏やかに暮らして欲しいとの思いから、落ち着いた空間の提供に努めています。入居者を大切に思っている様子が窺え、職員は入居者の要望を叶えられるように努めている姿も見受けられます。職員は、楽しく働いている様子が見受けられ、職員間で話もしやすい環境で、関係が良好な雰囲気があります。家族との関係が途切れないよう、時間や人数等に制限はあるが、できる限り一緒に過ごせる時間を作るように努めています。コロナウイルス制限緩和により、ドライブに出かける機会も増やしています。気候が良い日は、玄関でお茶を飲んでもらい、外気に触れる機会も作っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは利用者も職員も笑顔いっぱいの施設を創ります」という理念のもと、理念教育を行っており朝礼では、職員全員で唱和し続けている。	毎月スローガンを全員で考え朝礼で唱和し、実践に努めています。理念に掲げる「笑顔」が少しでも増えるよう、職員同士も明るく接しています。また、一日一度は入居者が笑顔になれるような話題を提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス制限緩和にて、運営推進会議を8月～再開している。地域の方にも参加していただけるよう、開催連絡を行っている。また、地域の清掃などには積極的に参加していきたい。	地域との交流を深めたいと考え、祭りのお花代や赤い羽根募金など、協力は惜しまないようになっています。地域清掃の案内が届けば、可能な限り参加している様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス制限緩和にて、運営推進会議を8月～再開している。認知症ケアの実施状況を開示し意見書にて意見をもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、利用者様の状況や取り組みについて報告している。参加できなかった各担当者には、書面と意見書を郵送し、もらった意見はサービスへ反映させている。	コロナ禍のため書面での開催ではあるが、運営推進委員に事業所の状況を報告し、意見をもらっています。市の担当者から、面会の再開・推進を図ることも重要との意見があり、面会を再開するなどサービス向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明時質問し教えていただいている。運営推進会議では、施設での取り組み等報告した際にも、色々な視点から意見を頂いている。	運営推進委員である市の担当者に、書面で状況を報告して意見をもらっています。生活保護受給者の入居者も居るため、不明点があれば直ぐに問い合わせ、指示を仰いで対応をすることになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年2回施設内研修を実施している。玄関は道路に面しており、車の行き来が多く、事故防止のため施錠している。また、2か月に1回運営推進会議にて、身体拘束における事例検討も行っている。	身体拘束の勉強会を実施し、職員に感想を記載してもらい回覧し、共有している。帰宅願望のある入居者には、話し合いを行って対応しています。ヒヤリハットも記載してもらい、身体拘束をしないケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、年2回施設内研修を実施している。現場では日々の些細な情報も共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。参加できない職員には資料配布し職員間での知識の共通を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書にて十分に説明を行い、不安な事や疑問に思われている事を聞き細かく説明し対応している。入居後も不明な点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前には意見箱を設置している。電話した際コミュニケーションを図り、意見を言いやすい関係づくりに努め、頂いた意見は反映できるよう、管理者・職員と話し合っている。毎月の通信にて、活動報告している。	入居者の様子を電話や訪問時に伝え、要望を聞かれています。何でも言いやすい雰囲気作りや、少しでも要望が聞けるように努めています。意見や要望等は、ミーティングで話し合い、反映させている様子が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい関係性を保ち、提案は都度検討し話し合いを行っている。施設の代表者と会社間で会議を行い、その会議の内容を職員会議にて話し合う場を持っている。	日頃からコミュニケーションを図っています。入居者の移乗をスムーズに行えるようし字手すりが欲しいとの要望に対し、すぐに他事業所に在庫の確認をし手配をしてくれるなど意見を反映するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力や実績、力量を把握し、やりがいを育てるよう個々に役割を持ってもらっている。また、給与水準は、キャリアパス基準を設けて定めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で研修を行っている。外部での研修は、コロナウイルス制限緩和にて、徐々にではあるが参加できる機会を増やしている。また、研修で資格取得しやすいうように、勤務の都合等は配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、コロナ禍にあり自粛していたが、現在は徐々にではあるが他施設と合同での研修を行っている。他施設と交流し、情報共有することで、サービス向上にも努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でヒヤリングを行い、職員間でカンファレンスを行い共有している。入居後は本人様の状態等把握しコミュニケーションの中で要望を聞き入れ不安等取り除くよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にはご家族の要望や不安を伺い、可能な限りのサービスを行っている。入居後も電話で、要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人様、ご家族の要望をケアプランに組み込み職員間で共有することで、出来る限り想いに添ったサービスを行っている。面談等で状態の把握を行い、看取り希望の方も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者様にも出来る限り役割を持っていただいたり、行事・行動を一緒にすることでコミュニケーションの時間を取り安心して生活が出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、状態や生活の様子を通信でお伝えし気になっている点は、対策を考え細かく説明している。また、利用者様が必要なものがある際は、電話連絡をし持ってきてもらうようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会制限も緩和しており、時間・人数制限等あるが面会できるようになっている。まだ、外出する機会は少ないが、馴染みの方の面会もできるよう支援している。	毎週面会に訪れる家族もいます。家族は、入居者の希望に沿って、毎回お菓子を持って来てくれ、一緒に食べています。遠方から面会に来てくれた時は、感謝を伝えまたの訪問を依頼し、関係が途切れない支援に取りくんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操の時間を設け利用者様同士の交流を深めている。職員と一緒に関わることで利用者様同士の関りを増やすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に利用する事業所や病院に情報提供をしている。また、退去時には何か相談があればいつでもご連絡くださいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし、生活の意向をその都度聞き取り勘定し、時にはご家族の意向を確認したり相談しながら、利用者様が安心して生活が遅れるよう、情報共有を行っている。	入居者の状態に応じて、直接話をしたり、ジェスチャーや選択制にしたりするなど、本人の思いをくみ取るようにしている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況、関係者から情報を頂き職員間で情報共有を行っている。新たな情報があればその都度共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にその時の状況、対応などを記録し職員間で申し送りをし、把握できるよう努めている。状態変化があれば、管理者、医師などへの報告、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化などあれば、モニタリング・アセスメントをし、職員への聞き取りや必要時のカンファレンスを行っている。職員からの支援内容への意見を聞きながら、介護計画の作成を行っている。	介護計画は、半年毎に見直しをしているが、入居者の状態の変化に応じて3ヶ月ごとに見直しすることもあります。職員から立位訓練が必要等の意見が挙げれば、介護計画に取り入れています。	介護計画変更を活かせるような個人記録の残し方について、現在検討中の勉強会を実施することに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録で日々の状態把握とどのような支援を行ったか記録をしている。その記録を確認し、新たにニーズが発生していれば計画し実施できるよう対応している。また、状態変化は都度共有し話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診・歯科往診への対応、必要時の受診、理容サービスへの対応など、できる範囲でサービス対応している。本人の変化に伴い、必要な支援は新しいことでも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はコロナ禍でもあり、地域との触れ合いが困難な状況であったが、徐々に緩和され、4月は花見に行くことができた。今後は安全を考慮し外出計画など立てていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が定期的であり、ご家族の了承のもと診察を受けている。また、希望の医療機関にも受診・往診などにも対応できるようにしている。	入居時に、希望のかかりつけ医を確認しており、希望がなければ、訪問診療対応の協力医を紹介しています。内科以外の受診は、家族に連絡して付き添いが難しい場合は、事業所でも対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週1回来てもらい利用者様の健康チェック、相談をしてもらっている。また、変化がある際は都度報告・相談を行い、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時での情報提供と、必要があれば入院先からの問い合わせ対応を行っている。退院時病院関係者と情報を共有し、連携をとっている。コロナ禍にあり、入院中の面会は行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針の説明をして、希望を聞いている。また、半年に1回ご家族に意向の再確認を行っている。看取りを希望されている方には、主治医と連携を取りながら、看取りの介護計画を作成し、支援にあたっている。	ここ最近看取りはしていないが、勉強会は実施しています。以前看取りを行った際に職員で協力して清潔を保ち、褥瘡対策に取り組んだ様子が窺えます。食欲が無い時も試行錯誤しながら、食べられる物を探して、入居者が食事を取れるような支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、マニュアルを作成し、入居者の急変時、事故発生した場合には速やかにかかりつけ医、看護師に指示を仰ぐよう職員に周知している。対応・処置が完了後は要点や根拠などの説明・指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	急な災害に備えて、年2回消防訓練と、年1回水害訓練を行っている。訓練ではいかに安全に早く避難誘導を行えるか考え、前回反省点を活かし取り組んでいる。水害については、避難経路等を作成している。	避難訓練と水害訓練を実施しています。訓練実施後は反省会を行い、出た課題に対して検討をしています。また、参加した職員からも感想をもらい、他の職員にも共有している姿が見受けられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、趣味嗜好を把握し、その人に合った落ち着いた声かけが出来るよう心掛けている。日常生活でも、意思を尊重し、役割を持ち生活を送っている。	入居者のプライバシーを損ねない支援に努めています。排便状況を確認する際に、言葉かけや対応に配慮しています。職員の口調によっては、管理者より教示することもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供やおもてなし時は、利用者様に選んでいただいたり食べたい物を聞いたり、出来るだけ望まれているものを提供している。着用する衣類も選択しやすいよう2種類から選んでもらう工夫し、自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に希望される事が違うが、意に沿えるよう個別にレクリエーションをして頂いたり、職員間で決まりを作ったりせず、常に利用者様の訴えに耳を傾け、日常生活のサポートを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回訪問理容に来ていただき、希望の利用者様はカットしていただいている。入浴や洗顔後化粧水を付けることが日課になっている方は、なくなれば家族に連絡している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの日等、利用者様に出来ることを無理なく手伝っていただいたり、食べたいもの等聞き入れ喜んでいただけるよう努めている。また、食後のお盆拭きも手伝っていただいている。	テレビを見ている際、「これが食べたい」と言う希望があれば、次回の手作りの日を作っています。気分転換に、弁当を頼むこともあります。食事が楽しめるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示のもと、利用者の心身状態を考慮した食事量、水分量を提供し、記録している。また、水分が入りにくい利用者様には飲みやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは必ず行っている。声かけしなるべく自力で行っていただき、困難な方は介助にて行っている。また、痛み等出た場合には、歯科の方に治療をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、パターンを把握し、一人一人に応じた声かけを行っている。誘導また介助が必要な方には残存機能を活かす介助を行っている。	日中は声を掛けてトイレ誘導し、排せつ支援に努めています。本人の残存機能を活かして、全介助にならないように援助しています。夜間帯もできる限りトイレに誘導し、おしめを使用しないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便が続く時は、バナナや牛乳等提供し、出来る限り下剤を使用せず排便を促せるようコントロールしている。入浴時や排泄時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、利用者様の体調の把握に努め、変化や拒否があった場合は別日対応する等工夫し、気持ちよく入浴してもらえる支援をしている。	入居者との一对一の大切な時間と捉えています。昔話をしながら入浴したり、入浴拒否がある入居者には、気持ちよく入れるように配慮しています。一人ひとりに合わせた支援に取りくんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときに休んでもらったり、体調を考え休息の時間を作っている。夜間帯は就寝時間が異なっているが、安心して夜間睡眠が取れるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師から薬の説明をして貰っている。変更などがある場合は職員間で情報共有している。内服薬は事務所で保管しており、毎食後職員が服薬支援を行っている。小さな変化も往診時に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なこと、やりたい作業をして貰ったり、毎月イベントを企画し楽しみにしてもらえるよう支援している。また、生活歴を把握したのち家事等でも役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス制限緩和にて、4月には花見に出かけることができ、気分転換を図ることができた。外出が難しい場合は、ベランダでおやつを食べたり、BBQをしている。	気候が良い日は、玄関でお茶を飲んでもらっています。外に出る機会が少ないので、パーベキュー大会や運動会では、中庭に出てもらえる機会を作っています。4月は久しぶりの外出で、車中から桜が見えると大喜びしていました。	今後もドライブに行くなど、外出の機会が増える事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理も難しく、希望等ないためお金を持たれている方はいない。コロナ禍にあり、外出での買い物もできていないが、ほしいものがあれば、ご家族へ連絡し持ってきてもらうようお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望はないが、家族から届いた手紙やプレゼントを渡している。また、ご家族や親戚からの要望で、電話で話したい時には、本人様に出てもらい話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、常に環境整備を行うと共に導線の確保を徹底し、毎月イベントや季節に応じた壁画や飾りなどを利用者様と一緒に製作し飾っている。	温湿度計で温度管理は実施していますが、入居者の要望も聞きながら温度を変更しています。椅子の背もたれが劣化し、新しい椅子を購入してもらったり、テレビを点けていない時は、入居者が好きな演歌を流して、居心地の良い空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり、休息のためソファで休んでいただいたり、自由に玄関で日光浴出来るようにしている、また、仲のいい利用者様同士の交流が図れるよう、席を近づけるなどの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた家具等希望があれば使用してもらっている。写真やカレンダー等を飾り、自分好みの部屋を作り、落ち着いた空間を提供するようにしている。	ぬいぐるみが好きな入居者には、目に付く場所にぬいぐるみを置いたり、家族写真を居室に飾ったりして、入居者が居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を共有し、出来ることは見守り、安全に生活でできるようにしている。また、物を置かないことで動線の確保も常に行っている。		